

2011年日本地球化学会第3回評議員会議事録

日時：2011年9月13日13時20分から17時45分

場所：北海道大学術交流会館第一会議室

出席者：海老原会長、吉田副会長、松久監事、鍵、川口、川幡、下田、鈴木、高橋、瀧上、橋、谷水、谷本、西尾、松枝、丸岡、山中、山本評議員、三澤

欠席者：中井、野尻、平野、松本評議員、佐野 GJ 編集委員長

1. 審議事項

1.1. Goldschmidt Conference Fukushima SessionにおけるStatement (案)

Goldschmidt Conference Fukushima Sessionにおける声明文(案)が会長より提示され、承認された。3学協会とCambridge Press上のGoldschmidt ConferenceのHP web上で公開される予定。学会HPのトップに、しばらくの間公開しておく。

1.2. 中国地球化学会とのAgreement (案)

Chinese Society for Mineralogy, Petrology and Geochemistryとの連携に関する覚書の取り交わしにむけて、相互に交流を持つことが了承された。支出を伴う事柄に関しては、両者間で十分に詰めておく。吉田新体制が発足次第覚書を取り交わし、2年ごとに更新を行う。自動延長とはしない。

1.3. 次期評議員会への申し送り事項(案)および検討事項

1.3.1. 2012-2013年度評議員会への申し送り事項

1) IAGC(国際地球化学連合)やGeochemical Society(米国地球化学会)、European Association of Geochemistry(欧州地球化学連合)、Chinese Society of Mineralogy, Petrology and Geochemistry(中国鉱物岩石地球化学会)との連携を一層強化し、国際的交流を通して会の活動をより一層活性化して欲しい。

2) Goldschmidt Conferenceにおける本学会の立場(主催3団体の1つ)を堅持して欲しい。GJ賞の授賞式、ブース展示、参加登録費の割引を引き続き継続して欲しい。Goldschmidt ConferenceでのGJ賞の授賞に併せて、授賞レクチャーをプログラムに組み入れてもらうようにして欲しい。Goldschmidt Conferenceのプログラム委員に地球化学会会員を積極的に推薦して欲しい。

3) Geochemical Journalの将来的展望を引き続き議論し、会の財政と整合させつつ、論文誌としての発展を期して欲しい。

4) 日本地球惑星科学連合、日本化学連合との関係を適宜見直し、地球化学会のプレゼンスを高めて欲しい。

1.3.2. 2012-2013年度評議員会での検討事項

1) JSPS育志賞、文科省科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞候補者、若手科学賞受賞候補者などの推薦依頼をどうあつかうかを明確に決める。

2) 地球惑星連合大会プログラム委員を他の一連の委員とともに、会期の初めにきめておく。プログラム委員の任期は1年だが、2年任期とすると好都合。評議員の中から選ぶ場合、2年間は評議員から外れることもあるが、評議員である必要はないので、問題にならない。

1.4. 会則改定

会則13条の改定(案)について

審議され、改定(案)「会務を執行するための幹事若干名をおく。幹事は評議員の承認を経て評議員の中から会長が委嘱する。幹事は会長、副会長、会誌編集委員長とともに幹事会を構成する」を総会にて審議することが了承された。

1.5. GJ出版社の選定

選定案として、会長から選定経緯について説明があり、テラパブと3年契約を締結することが急激な変化を伴わない最善策であるということでした。

1.6. 地学オリンピック日本開催中止にともなう協賛金の取り扱い

東日本大震災のために中止となった地学オリンピック日本開催への共催金5万円は、学会に返却してもらうことが了承された。

1.7. 総会にむけて

事業報告、事業計画、会計報告、会計中間報告、予算(案)が庶務幹事、会計幹事から提示され、承認された。

2. 報告事項

2.1. 鈴木選挙管理委員長より選挙結果報告がなされた。

2012-2013年度役員選挙結果(有効投票数164票)

会長: 吉田尚弘、副会長: 山本鋼志、監事: 清水洋

評議員: 板井啓明、岩森光、植松光夫、折橋裕二、川幡穂高、小畑元、佐野有司、下田玄、高橋嘉夫、谷水雅治、谷本浩志、角皆潤、原田尚美、日高洋、平田岳史、益田晴恵、丸岡照幸、南雅代、塚本尚義、横山祐典、次点橋省吾、平野直人

2.2. 庶務幹事報告(三澤幹事)

2.2.1. 文科省「若手科学者賞」への推薦1件を行った。

2.2.2. 大学評価・学位授与機構 機関別認証評価に係る専門委員(平成23年度実施分): 学会推薦の候補者を専門委員とすることは見送られたとの報告を受けた(8月)。

2.2.3. 国際文献倉庫に保管していた雑誌等の廃棄について、見積もりは以下の通り。荷役料(倉庫内への入庫・出庫料各々1回)80円×50箱+80円×25箱=6000円溶解廃棄(1箱)600円×25箱=15,000円作業手数料(半日/人)15,000円計36,000円。不要なものはすみやかに廃棄する。

2.2.4. GJページ単価

テラパブより提示された12,190円(消費税抜き)が2011年度のページ単価となった。

2.2.5. 2011年後期鳥居基金助成は、岨康輝(北大大学院)さん「12th International Coral Reef Symposiumへの参加」が採択となった(10万円)。応募2件中1件採択。

2.3. 会計幹事報告(谷水幹事)

2011年8月31日現在、

2.3.1. 2010年会計決算松久監事の監査済。収支では150万円弱の赤字(そのうち約50万円は2009年度以前の未払い)会費収入はほぼ横ばいだが、出版助成額および刊行物売上額が減少

2.3.2. 2011年中間報告(7/31までを反映)支出: おおむね昨年と同様。出版助成の減額が科研費三割削減のままで収入減。円高が続くと刊行物売上額減少

2.3.3. 2012年予算(案)収入: 2010.7.31時点の総会員数から単純に収入額を計算。出版助成は290万円から270万円に減額。幹事経費および旅費を減額して対応しているがやはり100万円近い赤字になる見込

2.3.4. 鳥居基金とGS基金

鳥居基金: 2011年度は2件採択、2010年末の残予算250万円。

GS基金: 今年度請求書類未着(今年度の支払いなし)、残予算188万円。

2.3.5. その他

立正大学年会LOCからの寄付50万円と海外からの寄付(震災チャリティーの収益金)は、基金化して有効に活用することが了承された。

2.4. 会員幹事報告(丸岡幹事)

2.4.1. 賛助会員になって雑誌を購入することはできないかとの問い合わせがあった(1件)。丸善を経由して購入されるのがよいが(昔からそのようにしている。そうするように地球化学会からの指示があった)、もし購入できない場合は、テラパブ経由で購入できると回答した(結果をどうしたのかどちらからも報告が無いので不明)。

2.4.2. @geochem.jp アカウントの個人利用の案内

メールニュース、印刷版ニュース(3/25 発行)に情報を掲載した。しかし、利用希望者は「0」である。転送だけの機能だとそれほど魅力に思われない模様。

2.4.3. 4 月になり住所不明者が出てきたので連絡

東大・大気海洋研究所の移転後、郵便転送が終わり、その所属の数名に郵便物が届いていなかった。連絡を取り住所を修正。

2.4.4. その他、学生会員が会に連絡せずにそのままということがあるので、指導教官に連絡を取っている。入会承認のメールにGJ 冊子体の購入希望者数を記録して送っている。会費未納者に対して督促請求のための手紙を送付した(加えて一部催促のメールも送っている)。内訳1-2年目の未納者127名(うち海外10名)、3年目の未納者22名(これで未納の場合は除籍)(うち海外2名)計149名。督促は例年3月および6月に行われている。2回目の督促は例年6月末ごろ発送し、7月31日を納入期限としている。今年は震災等の影響で第1回の督促請求が遅れ、7月末発送、8月31日を納入期限とした(すでに6名の方から納付済み)。昨年度は19名に3年未納で発送し、14名が除籍となった。

日本地球化学会会員数(2011年8月31日)

会員異動(2011/02/01-2011/8/31)

会員種別	人数	契約口数	冊子希望	不要
一般正会員	747		321	426
学生正会員	131		77	54
うち、学生パック	(56)		(29)	(27)
シニア正会員	64		33	31
賛助会員	9	9	8	1
名誉会員	8		5	3
合計	959		444	515
(寄贈)			17	
(GJ 発送総数)			461	

会員異動(2011/02/01-2011/8/31)

【入会】

(2月)

(一般正会員)

9282722 奥地 拓生 オクチ タクオ
岡山大学・地球物質科学研究センター

9282723 小松 睦美 コマツ ムツミ
早稲田大学教育学部・地球科学教室

(学生パック)

9282724 高柳 栄子 タカヤナギ ヒデコ
名古屋大学大学院環境学研究科・地球環境科学専攻

(3月)

(学生パック)

9282725 吉田 健太 ヨシダ ケンタ
京都大学理学研究科地球惑星科学専攻・地球物質科学講座・岩石学分野

(4月)

(正会員)

9282728 和田 茂樹 ワダ シゲキ

筑波大学・下田臨海実験センター

(5月)

(正会員)

- 9282730 大友 陽子 オオトモ ヨウコ
(独)海洋研究開発機構高知コア研究所・地下生命圏研究グループ
- 9282732 谷 晃 タニ アキラ
静岡県立大学環境科学研究所・植物環境研究室
- 9282734 玉村 修司 タマムラ シュウジ
幌延地圏環境研究所・地下水環境研究グループ

(6月)

(一般正会員)

- 9282738 佐藤 暢 サトウ ヒロシ
専修大学・経営学部
- 9282740 坪井 一寛 ツボイ カズヒロ
気象研究所・地球化学研究部
- (学生正会員)
- 9282731 菊池 早希子 キクチ サキコ
広島大学大学院理学研究科・地球惑星システム学専攻
- (学生パック)
- 9282726 藤谷 渉 フジヤ ワタル
東京大学大学院理学系研究科・地球惑星科学専攻
- 9282729 上野 昂幹 ウエノ コウキ
筑波大学大学院生命環境科学研究科・生命共存科学専攻
- 9282739 山口 祥 ヤマグチ アキラ
広島大学大学院理学研究科・地球惑星システム学専攻
- 9282743 小原 北士 オバラ ホクト
富山大学大学院理工学教育部・地球科学専攻
- 9282744 高地 吉一 コウチ ヨシカズ
富山大学大学院理工学教育部・地球科学専攻

(7月)

(一般正会員)

- 9282727 阿部 なつ江 アベ ナツエ
(独)海洋研究開発機構・地球内部ダイナミクス領域
- 9282733 青山 道夫 アオヤマ ミチオ
気象研究所・地球化学研究部
- 9282735 谷 篤史 タニ アツシ
大阪大学大学院理学研究科
- 9282736 水野 崇 ミズノ タカシ
(独)日本原子力研究開発機構・東濃地科学研究ユニット
- 9282747 伊藤 由紀 イトウ ユキ
財団法人 電力中央研究所・地球工学研究所・地圏科学領域

9282753 渋谷 岳造 シブヤ タカゾウ
(独) 海洋研究開発機構・プレカンブリアンエコシステムラボ

9282760 斉藤 哲 サイトウ サトシ
総合地球環境学研究所・食リスクプロジェクト研究室

9282761 稲村 修 イナムラ オサム
魚津市教育委員会・魚津水族博物館

(学生正会員)

9282737 岡林 克樹 オカバヤシ カツキ
大阪市立大学大学院理学研究科

9282764 石田 章純 イシダ アキズミ
東北大学大学院・理学研究科地学専攻

9282746 中易 佑平 ナカヤス ユウヘイ
富山大学理工学教育部・生物圏環境科学専攻

(学生パック)

9282741 阿部 健康 アベ タケヤス
東北大学大学院理学研究科・地学専攻・島弧マグマ学研究室

9282742 都築 達矢 ツツキ タツヤ
上智大学大学院理工学研究科・理工学研究室

9282748 望月 智貴 モチツキ トモキ
静岡県立大学大学院・生活健康科学研究科

9282750 坪井 辰哉 ツボイ タツヤ
静岡大学理学研究科・地球科学専攻

9282751 永田 啓晃 ナガタ ヒロアキ
名古屋大学大学院環境学研究科・地球環境科学専攻・地球化学講座

9282752 向高 新 ムコウタカ アラタ
東京工業大学大学院総合理工学研究科・化学環境学専攻

9282763 永井 友一朗 ナガイ ユウイチロウ
東京工業大学大学院理工学研究科・地球惑星科学専攻

(8月)

(一般正会員)

9282759 田村 明弘 タムラ アキヒロ
金沢大学理工学域・地球学教室

(学生正会員)

9282758 明星 邦弘 ミヨウジョウ クニヒロ
東京工業大学大学院理工学研究科・地球惑星科学専攻

(学生パック)

9282749 中畑 良紹 ナカハタ ヨシツグ
東北大学大学院理学研究科地学専攻・地球惑星物質科学講座

9282765 荒岡 大輔 アラオカ ダイスケ
東京大学大気海洋研究所・海洋底テクトニクス分野

9282766 安田 早希 ヤスダ サキ
九州大学大学院理学府・地球惑星科学専攻

9282767 坂本 祐樹 サカモト ユウキ

- 東北大学大学院理学研究科・地学専攻
 9282768 横田 和也 ヨコタ カズヤ
 東北大学大学院・理学研究科地学専
 9282769 藤原 将智 フジワラ マサトモ
 広島大学大学院理学研究科・地球惑星システム学専攻

【退会】

- (2月)
 9282613 伊藤 絵理佳 学生正会員
 (3月)
 3280283 増田 彰正 名誉会員 2011/3/17 ご逝去
 (4月)
 (正会員)
 3281691 小室 光世 正会員
 9282521 澤野 真規 学生正会員
 9282664 安齋 博哉 学生正会員
 (5月)
 なし
 (6月)
 なし
 (7月)
 なし
 (8月)
 なし

【会員種別変更】

- | (2月) | 変更前 | 変更後 |
|----------------|-------|--------|
| 3281408 島村 匡 | 一般正会員 | シニア正会員 |
| (3月) | | |
| 9282436 新原 隆史 | 学生正会員 | 一般正会員 |
| (4月) | | |
| 9282558 城谷 和代 | 学生正会員 | 一般正会員 |
| 9282614 松倉 誠也 | 学生正会員 | 一般正会員 |
| 9282633 塚崎 あゆみ | 学生正会員 | 一般正会員 |
| (5月) | | |
| 9282382 賞雅 朝子 | 学生正会員 | 一般正会員 |
| 9282384 東郷 洋子 | 学生正会員 | 一般正会員 |
| 9282394 荒川 雅 | 学生正会員 | 一般正会員 |
| 9282563 柏原 輝彦 | 学生正会員 | 一般正会員 |
| (6月) | | |
| 9282423 中村 英人 | 学生正会員 | 一般正会員 |
| 9282663 中村 明博 | 学生正会員 | 一般正会員 |
| (7月) | | |
| 3280506 茂野 博 | 一般正会員 | シニア会員 |

(8月) なし

2.5. ニュース幹事活動報告 (谷本幹事)

2.5.1. 電子メールニュースの配信。2011 No. 001-104 まで、合計 104 件のメールニュースを配信した (8月27日現在)。

2.5.2. ニュースレターNo. 204 を「地球化学 Vol. 45, No. 1」巻末で発行した (2011年3月25日)。

2.5.3. ニュースレターNo. 205 を「地球化学 Vol. 45, No. 2」巻末で発行した (2011年7月10日)。

2.5.4. ニュースレターNo. 206 を発行予定 (2011年9月5日発行予定)。

2011年度日本地球化学会年会のお知らせ (3) 2011年度第1回評議員会 議事録、院生による研究室紹介 No. 21 東京大学大気海洋研究所海洋底科学部門 海洋底テクトニクス分野 (川幡穂高教授)。書評 地球表層環境の進化—先カンブリア時代から近未来まで (川幡穂高)。

2.6 広報委員会報告 (鈴木幹事)

2.6.1. 学会ホームページ

2.6.1.1. 地球化学会サイトにおける「会員の研究成果」宣伝ページの開設について (原田委員担当)

学会ホームページのトップページでは、GJのエクспレスレターについては必ず紹介文を依頼し掲載している。こちらから依頼するのは Nature, Science など一般誌にでた場合のみにし、専門誌への成果の紹介については、別途「会員による最近の研究成果」というページを新設した。

7月に1件の掲載があつて以降は、掲載希望はない。さらに、トップページでは、学会員の最新著書の紹介、学会各賞・鳥居基金の受賞者紹介、学会活動の様子を写した画像なども掲載していく予定である。

2.6.1.2. 広告の募集ウェブ広告は、テラパブとオーテックの広告が掲載されている。今後も評議員、広報委員の方々にぜひ取引業者に広告を依頼してほしい。広告料金に含まれているもの：トップページのバナーリンク先の1ページ分 (サイズ制限なし)。地球化学会メーリングリストによる宣伝 (年12回まで)。アクセス数：2万弱/月。テラパブのクリック数は、約140/月となっている。

2.6.2 講師派遣 (山本委員、小木曾委員担当)

2010年1月から開始した講師派遣事業も約1年半、順調に派遣を行っている。派遣講師登録数：47名 (メールニュースでも再度募集のお知らせを行った)。出張依頼：21件。

学会から (立正大学LOCからのほうがよい?) 講師派遣事業 (講師の旅費) に20万円手当されることになった (基金化)。派遣のための講師旅費は、以下の通り。丸岡さん：神奈川県立横浜清陵総合高等学校、3320円。板井さん：香川県立観音寺中央高等学校、6600円。海老原さん：北杜市立甲陵高等学校、未払い。

2.6.3. 学会ブース

2.6.3.1. 2011のブース (下田広報幹事担当)

以下の広報活動を行い、国内外の研究者に、GJの冊子体、CD、ロゴ入りボールペンなどを配布した。EAGの事務局メンバーとも毎年コミュニケーションが行われ、また、GJ賞の授賞式、福島セッションなど、さまざまな場で、広報担当者と各学会の責任者と話をする機会を持った。

学会のウェブページで、Goldschmidtでの様子を表す写真の掲載依頼を行っている。

- 1) Fukushima Review のセッションに関する宣伝ポスター (1枚)
- 2) 海老原会長による福島原発事故に関するメッセージ (ビラで50部程度)
- 3) 日本地球化学会パンフレット (英文：200部)
- 4) Express Letter の宣伝ビラ (100部)
- 5) GJ冊子体 (2011年1、2、3号各20部、2010年については各10部)
- 6) GJ-CD (100枚)
- 7) 学会旗
- 8) デスク (1台) 椅子 (2台) の増設
- 9) 学会ロゴ入りボールペンの無料配布 (100本位)

2.6.3.2. 年会でのブース

地球化学講座第8巻の販売、派遣講師の募集などの役割を終えたこと、広報委員もセッションの主催や発表などブースのマネジメントが容易ではないことを考慮し、札幌年会では広報ブースを設けない。

2.6.3.3. 学会パンフレット・GJ チラシ配布

評議員が国内外の研究集会に参加する際に、広報委員会に事前に連絡があれば、パンフ・チラシを使った広報活動が可能である。

2.7. 企画幹事（鍵幹事）

横浜国立大学と連携して行う理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー：CST）養成拠点構築について説明があった。

2.7.1. CST 養成プログラムに地球化学会会員（講師派遣事業に参加している会員が望ましい）によるショートコース（1日）を組み入れ、地球化学になじみの薄い小学校・中学校教員、大学院生に話題を提供する。

2.7.2. ショートコースの講演と講師派遣事業のリストをもとにして、CST 候補者（現職教員）が、本人の勤務校（あるいは、近隣の学校の合同）において開催する子供向けの出前授業の企画をたて、日本地球化学会の講師派遣事業をお願いし、担当講師との打ち合わせによる学校や子供の状況の説明と講演内容の理解、学校現場での周知、調整などを横浜国立大学の CST 事業担当教員の助言を受けながらも、主体的に実施することで企画・運営能力をスタジオ型教育（実践的な活動を中心とした教育）により養成する。

2.7.3. 来年度の年会開催地は、九州大学箱崎キャンパス（大会委員長は、吉村会員）。

2.8. Geochemical Journal 関連報告（佐野 GJ 編集委員長）

2.8.1. 2011 年発行状況（8月25日現在）2011年 No. 3は6月に配布された。2011年の No. 4は近々配布される予定である。

2.8.2. 2011年編集状況（8月25日現在）前回報告した2011年5月13日からの状況は次の通り。特集号として以下の提案がある。

第57回年会「南太平洋-パタゴニア地域の地球科学総合研究」セッションに基づく特集号-代表：東大地震研・折橋さん

2011年ゴールドシュミット会議「Fukushima Review」および第58回年会「災害による環境汚染および復興の地球化学」に基づく特集号-代表：首都大・海老原さん、東工大・吉田さん

第58回年会「水圏環境地球化学-佐竹洋先生記念シンポジウム」に基づく特集号-代表：富山大・張さん

2.8.3. GJの表紙デザイン変更については、年会期間中にアンケートをとる（原稿デザインも含めて）。その結果を踏まえて、根本新編集長体制への移行とともに表紙デザインを変更する。

2.9. 和文誌「地球化学」関連報告（高橋「地球化学」編集委員長）

2.9.1. CiNii での創刊号以降の全文公開について最新号については順次掲載済み（44巻4号～45巻2号）（最新号については順次発刊後約3ヶ月後の公開となる）。バックナンバーについては、現在 CiNii 側で作業を行っており、11月頃公開開始予定。なお J-Stage が投稿システムの利用を提供する予定があり、CiNii から J-Stage への変更を検討中。

2.9.2. 発刊予定

【2011年 Vol. 45, No. 3】

日本地球化学会賞受賞記念論文・鈴木和博「EPMAによるTh-U-Pb化学アイソクロン年代測定法の開発と鉱物粒子年代測定への展開」

日本地球化学会奨励賞受賞記念論文・谷水雅治「ICP質量分析法を用いた重元素安定同位体比の精密測定による地球化学の新展開」

日本地球化学会奨励賞受賞記念論文・福士圭介「先進的表面錯体モデリングによる酸化物への陰イオン吸着挙動の予測」

企画総説「地球化学の最前線」臼井寛裕「近年の火星隕石研究・火星探査から得られた新しい火星の描像」

博士論文抄録・荒川雅「中性子回折及び赤外分光法による氷の水素秩序化の研究」

【2011年 Vol. 45, No. 4】特集号「アストロバイオロジー」（ゲストエディタ：藪田ひかる）大場康弘ほか「高密度星間分子雲内部における二酸化炭素生成に関する実験的研究」大竹翼、渡辺由美子「硫黄同位体から読み取る太古代地球の表層環境：現状とその問題点」杉谷健一郎「西オーストラリア・ピルバラ地塊における前～中期太古代化石記録とその生物進化史における意義」駒林鉄也「地球深部物質学から見たアストロバイオロジー」大原祥平「化学進化に果たした硫化鉱物の役割」中村謙太郎、高井研「海底熱水系の生物地球化学：海底熱水の化学的多様性は熱水生態系を規定」杉田精司「火星のアストロバイオロジー探査はどこまで進んだか（仮題）」

2.9.3. 査読中報文

現在2編が査読中。

3. その他

GJのめざす方向性およびIFをあげる方策について、意見交換をおこなった。